

かやぶき屋根プロジェクト活動ガイドブック

# 「かやぶき屋根プロジェクト」 って何？





## CONTENTS

「かやぶき屋根」ってどんなもの？	3
「かやぶき屋根プロジェクト」始まりました！	5
まずは素材を手に入れよう	6
手に入れた「かや」で屋根を直そう！	8
学んだり振り返ったりしてみよう	10
これまでこんなことをやってきました！	11
「かやぶき屋根プロジェクト」に参加するには…	15

# 「かやぶき屋根」ってどんなもの？

「かやぶき屋根」を見たことはありますか？漢字で書くと「茅葺屋根」と書きます。皆さんはこの「かやぶき屋根」に対してどのような印象をお持ちでしょうか？

古民家

白川郷

世界遺産

職人

自然



「かやぶき屋根」の建物

十人十色、みなさんさまざまな印象をお持ちになると思います。上の写真は横浜市歴史博物館のとなり、大塚・歳勝土遺跡公園内に復元された、今から2,000年前の竪穴住居です。竪穴住居は地面を掘りこんで床とかべが作られており、地上部分が屋根となる造りの家です。この竪穴住居の屋根は、「かや」で覆われています。この屋根のことを、「かやぶき屋根」と言います。

では「かや」とは何でしょうか？これはイネ科の植物の総称です。特定の植物を指す言葉ではありませんが、イネ科の植物の茎は総じて長く育ち、また丈夫なことから屋根の材料以外の用途にも使われています。写真の「かや」はススキですが、風雨や太陽の光にさらされると弱くなってしまうので、下の写真をご覧ください。



時間が経った「かやぶき屋根」建物

色がくすんで「かや」も抜けてしまっています。表面は触るとくずれてしまいます。時間が経つと数年で「かやぶき屋根」はボロボロになってしまうのです。

この「かやぶき屋根」を直すにはどうしたら良いのか？職人さんにはいつもお願いできないため、材料の確保から修繕まで、博物館と地域の人とで「かや」と「かやぶき屋根」について学びながら修理ができないか？というのが、「かやぶき屋根プロジェクト」の始まり、平成28年の晩秋のことでした。



杉寄靖司さん

では、どうすれば自分たちで直せるのか考えていたところに出会ったのが、山梨県で茅葺屋根職人をされている、杉寄靖司さんです。杉寄さんは、静岡県と山梨県の境、朝霧高原にある茅場の管理をされている、朝霧高原活性化委員会のメンバーでした。早速「かやぶき屋根」の修理について相談をしたところ、まずは材料である「かや」を刈りに行くことをご提案いただきました。

平成29年3月に、博物館の職員3名が横浜から車で2時間かけて、富士山のふもと「朝霧高原茅場」での「かや刈り」に行ってみました。



屋外での研修の様子

朝霧高原茅場で「かや」を刈るにはまず、研修を受けなければならないということで、無事修了の証の帽子をもらいました。その赤い帽子には「茅刈り人」の文字が燦然と輝いており、そこはかとなく誇らしげな気持ちになりました。



室内での研修の様子



研修修了の証の赤い帽子



これを受け、平成29年4月から本格的に「かやぶき屋根プロジェクト」は始まりました。自分たちで少しずつ「かやぶき屋根」を直していくことで、できる限り長く維持しながら、「かや」や大昔のことも学んでいこうと考え、活動しています。

# 「かやぶき屋根プロジェクト」が始まりました！

平成29年度から本格的に始めた「かやぶき屋根プロジェクト」。  
初めは何をすればよいのか何も分からなかったのが、杉寄さんにお越しいただき、  
研修という形で活動を始めました。



実地研修の様子



座学研修の様子

座学での研修と実地の研修を交えて、少しずつ学びながら「かやぶき屋根」の修繕と、材料となる「かや刈り」を継続して行ってきました。

次のページからは「かや」の刈り方と屋根の直し方について写真を交えて解説していきます。

# まずは素材を手に入れよう

私たちがプロジェクトで使用している「かや」は、朝霧高原茅場のススキです。

朝霧高原茅場のススキは、春に野焼きで火を入れることで、冬になると大人の身長を大きく超えるまでに育ちます。そのためススキを刈ることができる期間は意外と短く、12月～3月の4ヶ月間のみとなります。



野焼きの様子



大きく育ったススキ

まずは「かや」を刈らなければならないのですが、片手でススキの株を抱えこみ、鎌を使って地面から少し上、5～10cm のところで刈り取ります。

あるていどの量がたまるまで、何株も刈り取ってから束ねていきます。



ススキを刈り取る様子



「かや束」を締め上げる様子



結束用のビニールひも

頑張って刈り取ったら、大きな束（かや束）にまとめていきます、まとめるには編み込まれたビニールひもが使いやすいです。片側の橋を輪にして使います。ビニールひもを束の上下に回したら体全体を使って、しっかりと締め上げて縛ります。締め上げがゆるいと、途中でほどけてしまいます。



しっかりと結びますが、紐を引っ張るとすぐにほどけるようになっています



きれいに立った「かや束」

しっかりと縛られた束は自立します。この状態で屋内に保管しておき、必要な時に屋根の材料などに使うわけです。



収納される「かや束」

「かやぶき屋根プロジェクト」では、毎年12月と3月に朝霧高原茅場へ「かや刈り」に出かけて貴重な素材を手に入れています。次は、手に入れた「かや束」の使い方を紹介します。

# 手に入れた「かや」で屋根を直そう！

朝霧高原茅場で、大きくて丈夫な「かや」を手に入れましたが、竪穴住居の修繕ではそのままの長さではあまり使いません。

おおよそ3分の1程度の大きさにカットして、束も細めの「差しがや」を作ります。

「差しがや」は、たくさん作っておいて必要な部分に文字どおり差しこんで追加していきます。

では、実際に「かやぶき屋根」を直していきます。職人さんはとても高度な技術と経験からきれいに直していきますが「かやぶき屋根プロジェクト」は、日々少しずつ直していくことが目的なので、まずは屋根の掃除から行います。



「差しがや」の作成風景



「差しがや」



屋根に積もった落ち葉や木の実を掃き落とす

大塚・歳勝土遺跡の竪穴住居は見えている部分すべてが屋根なので、比較的掃除はしやすいです。屋根に落ち葉や木の实が積もったままだとそこから、「かや」が腐ってしまうのでしっかりと掃き落としていきます。



雁木



雁木を使った叩き込み

時間が経つと「かや」は少しずつ外に抜け出てきてしまいます。その「かや」を押し込む道具に雁木があります。雁木には柄が長かったり平べったかったり色々な形のものがあります。

みんなで屋根に向かって雁木を叩き込むことで外に出てきた「かや」を押し戻して屋根を詰めていくことでより長持ちします。



竹ぼうきで掃いて

しかし、「かやぶき屋根」の部分によっては一部が腐ってボロボロになっていることもあります。そんな時は「差しがや」を使って「かや」を追加することで部分的に直していきます。

まずは、ボロボロになった部分を竹ぼうきなどで取り除いていきます。

次に取り除いた部分に「差しがや」を写真のように追加していきます。



「差しがや」を追加して



さらに追加して…



中の骨組みに固定する

このように少しずつ「かやぶき屋根」を直していきます。

# 学んだり振り返ったりしてみよう

「かやぶき屋根プロジェクト」では「かや」の刈り取りや屋根の修繕のほかに、必要に応じて職人技を見学させていただいたり、自分たちの活動を振り返って報告会を行ってみたいもしています。



磯子区横浜市三殿台考古館で行われた見学会に参加（平成31年）



職人による横浜市三殿台考古館での「かやぶき屋根」修繕の様子



「かやぶき屋根プロジェクト」の報告会を実施（令和2年）  
多くの人に参加いただきました

令和元年度  
かやぶき屋根プロジェクト活動報告会  
「茅刈り人になってみて」

「かやぶき屋根プロジェクト」の活動報告会を実施します  
今ではなかなか見なくなった「かやぶき屋根」。鎌倉では鎌倉区と磯子区  
の遺跡や都筑区の大塚・高橋土遺跡など復元された大塚の遺跡で実  
習することができます。

「かやぶき屋根」は自然素材の竹骨がたつともなっています。ま  
ま、大塚・高橋土遺跡の「かやぶき屋根」を自分たちで再現  
し組み立てています。この活動報告のほかに、職人さんによる「茅  
と「かやぶき屋根」についての美しい知識も学んでいます。

2月9日(日) 13:30～16:00

- 会場/穴守 磯子区磯子公園の工務（磯子区大塚）
- 参加費/無料 ●定員/30人（先着順）
- 申込み/活動WEB サイトよりお申込みください

報告会「平成30年度磯子区南島遺跡野外展示施設復元型実習 建て直し実習」  
（磯子区大塚・磯子区大塚）  
報告会「かやぶき屋根プロジェクト活動報告会 茅刈り人になってみて」（磯子区大塚・磯子区大塚）  
報告会「かやぶき屋根プロジェクト参加記」（磯子区大塚・磯子区大塚）  
報告会「茅人になってみよう 茅と、茅葺き屋根」（磯子区大塚・磯子区大塚）

横浜市歴史博物館  
TEL: 045-512-7777 〒224-0002 横浜市磯子区磯子1-13-1  
WEB: <https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

報告会のチラシ

これまでこんなことをやってきました！

かやぶき屋根プロジェクトのこれまでについては、広報誌横浜市歴史博物館 News の43号以降で報告しています。こちらに再掲載しますので「かやぶき屋根プロジェクト」の活動をご覧ください。



高床建物の茅のふき替え



都筑民家園の茅ぶき屋根を修繕された茅吉さん



富士山のふもと、朝霧高原の茅場



束ねられた茅



講座のようす



茅刈り人の証しを身に付けて誇らしげな人たち

おおつか さいかちどいせきこうえん  
大塚・歳勝土遺跡公園だより

## 茅を刈る人

文 橋口 豊

大塚・歳勝土遺跡公園は平成8年3月23日に開園してから、20年が経過しました。この間に多くの見学者が、復元された環濠集落や方形周溝墓を目にし、およそ2000年前の弥生時代の人々の暮らしに思いをはせたことかと思えます。

大塚遺跡内の建物の屋根は茅を使って推定復元しています。茅とは、屋根をふく材料とする草の総称で、主にイネ科のススキ・チガヤやカヤツリグサ科のスゲなどの植物を指します。

茅は植物ですから、他の屋根材に比べて風雨にさらされれば劣化が進みます。定期的な修繕を行うことで内部を支える梁や柱を守ることができるため、大塚遺跡でも可能な限り茅のふき替えなどを行っています。

大塚遺跡の復元建物をより長く、より多くの人に見学してもらうためには、抜け落ちた茅のたたき込みといった日頃のメンテナンスやちょっとした修繕も必要です。そのためには何ができるのか検討していたところ、幸運にも都筑民家園の茅葺き屋根のふき替えに来ていた茅吉

さんとお会いすることができ、茅の確保と自主的な修繕についての講習会の存在を聞くことができました。そこで、当館では『かやぶき屋根プロジェクト(仮称)』を立ち上げ、屋根の材料となる茅と修繕を行える人材の継続的な確保を目指すことにしました。

プロジェクトの準備段階として、茅吉さんの手引きのもと、去る平成29年3月11・12日に当館職員3名が静岡県富士宮市の朝霧高原茅場にて茅刈り講習を受けました。この研修に参加し、検定に合格することで、朝霧高原茅場で茅を刈ることを認められた「茅刈り人」となることができます。

研修は、茅場での実地と座学の講座が行われ、その後の検定に合格した私たち3名は、晴れて「茅刈り人」となり、証となる赤色の帽子をもらうことができました。

当館ではプロジェクトをとおして「茅刈り人」を増やしていくと共に、茅ぶき屋根修繕の講習と実地を重ねて、大塚遺跡の復元建物の活用を進めていきたいと考えています。



おおつか さいかちどいせきこうえん

大塚・歳勝土遺跡公園だより

— かやぶき屋根プロジェクト 始動 —

## 茅たたく人

文「茅刈り人」達

(高橋健/羽毛田智幸/橋口豊)

前回の遺跡公園だよりで「茅刈り人」となった私たちは、平成29年度をとおして「かやぶき屋根プロジェクト」に取り組みました。この場を借りて報告します。

その目的は、復元竪穴住居を実際に修繕することによる茅葺き技術の蓄積です。具体的には全5回の研修を行いました。講師には私たちが「茅刈り人」になるきっかけを作っていただいた「富士かやぶき建築茅吉」の杉寄靖司氏をお迎えました。

研修にあたってまずは協力者を募らなくてはなりません。「茅刈り人」達による度重なる検討の末、近隣在住者を中心として研究に関係ある学生、やる気あふれる主婦、経験者など10名程度ですが、老若男女多彩な人材に参加いただけることとなりました。

次に修繕するための「雁木」という道具を準備しました。これは経年によって浮き上がった茅をたたき込むための木製の道具です。日常の管理に必須となります。

果たして平成29年9月30日に無事第1回目の研修を大塚・歳勝土遺跡公園で行うことができました。初回は朝霧高原茅場についての紹介と基本的な修繕方法のレクチャーを受け、11月25日に開催した2回目には、

早速本格的な修繕を行いました。大塚遺跡内の復元竪穴住居(Y-39号)を対象に、傷んだ茅を新たな茅と交換する「差し茅」や「雁木」を使ったたたき込みの指導を受けました。平成30年2月23日には第4回研修として引き続き復元竪穴住居(Y-39号)の修繕を行いました。「差し茅」用の茅束作りから足場を据えて高所での「差し茅」の技術を学びました。

12月9・10日、平成30年3月10日には第3・5回目の研修として朝霧高原茅場での茅刈りを行いました。今年から新たに参加された方に「茅刈り人」になってもらうことと、修繕に必要な茅を確保することが目的です。朝霧高原の茅は他の茅場と比較して背が低いとのことですが、刈り集めて束ねると非常に大きく感じられます。なお、研修参加者はいずれも無事「茅刈り人」になることができました。

5回の研修をとおして茅葺き屋根修繕の基礎を学ぶことができました。そして平成30年度以降も引き続き「かやぶき屋根プロジェクト」は継続していきます。「茅刈り人」かつ「茅たたく人」達の活躍にご期待ください。



# 茅を葺く人

大塚・歳勝土遺跡公園だより  
かやぶき屋根プロジェクト2年目

文「茅刈り人」達  
高橋健 羽毛田智幸  
橋口豊 倉藤宣政

「かやぶき屋根プロジェクト」は、朝霧高原茅場の茅を刈ることができる「茅刈り人」を育成し、大塚遺跡にある復元竪穴住居の修繕に必要な茅を確保すること、自分たちでできる修繕技術を習得することを目的として、1年間活動してきました（博物館News No45）。

平成30年度の「かやぶき屋根プロジェクト」は「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として文化庁と委託契約を結び、活動することとなりました。「朝霧高原茅場」は、文化庁によって「ふるさと文化財の森」設定地とされています。「ふるさと文化財の森」とは、文化財建造物を修理し後世に伝えていくために必要な資材の確保を行う為に文化庁が設定している地域のことです。「かやぶき屋根プロジェクト」は「朝霧高原茅場」の茅を活用するとともに、「ふるさと文化財の森システム」の普及啓発も推進していくこととなりました。

さて、平成30年度はまだ半ばですが、昨年度の活動を踏襲しつつ新たな試みも取り入れています。6月23日（土）に横浜市歴史博物館の入口前スペースにて朝霧高原茅場で刈り取った茅を使い、差し茅用の茅束を作成しました。事前にチラシなどで告知していたこともあり、興味を持った市民の方が数名参加してくれました。

11月18日（日）は「かやぶき屋根プロジェクト」に新たに興味を持っていただいた人への研修会、11月25日（日）は復元竪穴住居の修繕を講師の先生の指導のもと

行いました。修繕内容はまず「雁木」を使い竪穴住居全体をたたき込むことで浮き上がった茅を安定させます。そして屋根のやせた部分に差し茅をしていくのです。昨年度は講師より事細かに指導を受けながら行いましたが、今回は難しい部分のみ指導をいただく形で進めることができました（まだまだ多くご指導はいただいておりますが…）。ほんの少しかもしれませんが「茅刈り人」たちが茅の扱いに上達していることを実感した瞬間に立ち会うことができました。

この後年度内の研修は、月一回のペースで進める予定です。自分たちでできる修繕をとおして、市民の皆さんに大塚・歳勝土遺跡公園を身近に感じていただける機会を多く作れるようにこれからも活動していきますので、よろしくお願いします。



かやぶき屋根プロジェクトは文化庁平成30年度「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として実施しています。

# 茅替える人々

おおつか さいかちどいせきこうえん  
大塚・歳勝土遺跡公園だより  
かやぶき屋根プロジェクト編

文「茅刈り人」達  
高橋健 羽毛田智幸  
橋口豊 斎藤宣政



文化庁の「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として委託契約を結んだ平成30年度の「かやぶき屋根プロジェクト」は、2018年12月8(土)・9日(日)の朝霧高原茅場での茅刈、2019年1月26日(土)の横浜市三殿台考古館での茅葺屋根修繕説明会、2月24日(土)の大塚遺跡での復元竪穴住居修繕の実施、3月9日(日)の朝霧高原茅場での茅刈をもってその活動を終了しました。

2019年度も、自分たちで実施する茅葺屋根修繕を進め、市民の皆さんに大塚・歳勝土遺跡公園を身近に感じていただけるようにこれからも取り組んでいく予定です。

さて、この冬のトピックとして茅刈り人たちの活動ではないのですが、横浜市内の復元竪穴住居について大きな動きがありましたので報告します。なんと大塚遺跡の7棟の復元竪穴住居のうち5棟が、職人さんたちの手により修繕されました。また磯子区に所在する横浜市三殿台考古館内の3棟のうち2棟の復元竪穴住居も修繕されました。

大塚遺跡では2019年1月初頭から3月末までの3ヶ月間、職人が行う大塚遺跡の修繕を間近で見学する機会を得て、また疑問には親切にお答えいただいて、茅

刈り人たちも大きな刺激を得ることができました。

横浜市三殿台考古館では2019年1月26日に茅葺屋根修繕に関する研修会が実施され、前述のとおり「かやぶき屋根プロジェクト」でも研修として参加しました。

こうして大塚遺跡・三殿台遺跡ともに生まれ変わりました。多くの皆さんに復元竪穴住居を見学いただきたいと思います。「かやぶき屋根プロジェクト」では、多くの茅刈り人を育て、史跡と市民の距離を近づけて文化財の保護・普及・活用につなげていくために今後活動していきます。



かやぶき屋根プロジェクトは文化庁平成30年度「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として実施しました。

「かやぶき屋根プロジェクト」に参加するには…

「かやぶき屋根プロジェクト」では市民の皆さんに是非ご協力いただきたく思い、ボランティアの募集を実施しています。下に掲載したのは令和元年度のボランティア募集のチラシになります。令和2年度以降も「かやぶき屋根プロジェクト」の活動とボランティアの募集は継続していきます。皆さんの参加お待ちしております。

えっ!? たて穴住居がなおせるの?

令和元年度  
かやぶき屋根プロジェクト  
HELP!!

ボランティア募集!

Before After

横浜市歴史博物館のおとなり、国指定史跡の大塚・歳勝土遺跡公園には、今から約2,000年前の弥生時代のムラが復元されています。復元された建物はいずれも茅で葺かれており、定期的なメンテナンスが必要です。そこで当館では経験豊富な職人さんの指導のもと、茅屋根の修繕やその材料となる茅刈りを実践する「かやぶき屋根プロジェクト」を立ち上げ、一緒に活動いただくボランティアを募集します。

**募集要項**

応募条件：心身ともに健康な満18歳以上の男女  
 活動内容：刃物など工具を使用した屋外での作業  
 （ボランティア保険に加入します）  
 活動期間：2019年11月～2020年3月の間、  
 月1回程度（土曜・日曜中心）  
 活動時間：9:00～16:00、13:00～16:00のいずれか  
 活動場所：大塚・歳勝土遺跡公園、朝霧高原茅場（静岡県富士宮市）  
 募集人数：10人程度  
 応募方法：当館 WEB サイトよりお申込下さい。

**横浜市歴史博物館**

〈お問い合わせ〉045-912-7777  
 〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1  
 〈WEBサイト〉<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

**文化庁** かやぶき屋根プロジェクトは文化庁令和元年度「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として実施しています



---

発行日 令和2年2月29日  
編集 茅刈り人たち  
発行 (公財)横浜市ふるさと歴史財団 横浜市歴史博物館  
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1  
TEL 045-912-7777  
<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>  
デザイン やなぎ堂



かやぶき屋根プロジェクトは文化庁令和元年度「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として実施しました。

---